

活性化ビジョンの柱立て（案）

■目指すべきまちのビジョン

- ①「人とひとびと，地域の活動がつながるまち」
- ②「地域の資源と立地環境を活かした魅力・産業・仕事生まれるまち」
- ③「緑豊かな環境を活かし，楽しく，安心・便利なライフスタイルを実現するまち」

①「人とひとびと，地域の活動がつながるまち」

【現状・課題】

- ・地域で活動している人や団体はたくさんあるが，その活動があまり知られていない。
- ・地域を超えた人材・活動のつながりができていない。
- ・ニュータウンや桂坂など，地域によっては地元で集える場（飲食店を含む）が少ない。
- ・「桂ヴィレッジフェス」や「洛西マルシェ」など，地域の方が中心となって作り上げたイベントが生まれてきている。
- ・自治会は負担が多く加入しない人が増えており，地域コミュニティの希薄化が進んでいる。
- ・自治会への加入，未加入を問わずイベントなどには声をかけ，参加してもらっている地域もある。
- ・大原野の生活圏は東向日であり，地域としての意識が異なる。

【施策方向性】

- 地域で活躍している区民・団体・地域がつながり，多様な活動同士のコラボレーションや，地域課題の解決に向けた取り組みが更に進むことで西京区・洛西のまちや暮らしがより豊かになることを目指します。

取組例：西京区全体での人材・団体の情報共有と交流促進による重層的なネットワークの構築

- ・西京区全体で，まちづくりの人材や団体の情報を共有する仕組みをつくり，交流を活性化。
- ・ただし，初めから西京全体でまとめようとせず，まずは「大原野と洛西NT」，「洛西NTと洛西口エリア」など，個別の地域をつなげるところから始める。
- ・イベント・祭り等を有効に活用し，高齢者，子ども，父母親世代などの世代ごと，または世代を超えて交流できる場をつくり，今あるネットワークも含め，住民間の重層的なネットワークの構築を目指す。

②「地域の資源と立地環境を活かした魅力・産業・仕事が生まれるまち」

【現状・課題】

- 西京区は多様な個性を持つ地域が集まっており、豊かな自然や市内最大級の農業地域から生まれる地域産品、歴史豊かな社寺仏閣等など、魅力的な地域資源も数多くあるが、あまり地域住民に知られていない。また、それぞれの資源が結び付いておらず、外への発信力も弱い。
- 地域の魅力発信や魅力づくりを区全体・区民ぐるみで取り組むネットワークがない。
- 近年では、平成15年に阪急電鉄洛西口駅、平成20年にはJR桂川駅が開業するとともに、平成25年には京都第二外環状道路が開通するなど、都市基盤の整備が急速に進んでいる。
- 区全体ではバス路線が充実してきたが、地域によっては経路や運行時間などの利便性に一層の向上が求められる（区内移動も含む）。
- 西京区エリアにおける地域の活性化について官民が一体となって取り組む、「洛西口駅～桂川駅間プロジェクト」が始動するなど、西京区全体の活性化につながるまちづくりの機運が高まりつつある。
- 昼夜間人口比率は市内で最も低い区となっている（特に生産年齢人口は73.4%）。
- 高齢者、子育て中の母親、若者が働ける場が区内にあまりない。
- 元気な高齢者が多いが、その活力を活かしきれていない。

【施策方向性】

- 西京区の特徴は多様な個性を持つ地域が集まっていることにあるが、外にその魅力を発信するためにも、まずは区民自身がそれぞれの地域の魅力を再確認・再発見し、それを自ら楽しむことから始めます。

取組例：区民自らが自らの地域魅力を再確認し、つないで、外向けにもPR

- 西京区の多様な地域性を活かす視点が重要であり、まずは区内に住んでいる住民自身が自らの地域の魅力を再確認し、それを区内で共有する取組を推進する。
- 魅力的な地域資源を地域住民に知ってもらうためのツール（情報誌等）の開発。
- 更に、地域資源を区全体の視点にたって結び付けていくことや、PRすることも必要。



地域の情報誌事例：右京じかん（NPO法人 子育ては親育て・みのりのもり劇場）

- 商業・業務機能が集積する都心とは異なり，西京区においては，良好な住環境や身近な自然環境など「郊外」としてのまちの魅力は大切にしつつ，学術機関を資源とした豊富な人材，市内有数の農業資源，個性ある歴史文化資源，高速道路による広域アクセスなどを活かした西京区ならではの「魅力あるスポット」「観光ルート・特産品の開発」や「産業・新ビジネス」の創出を目指します。

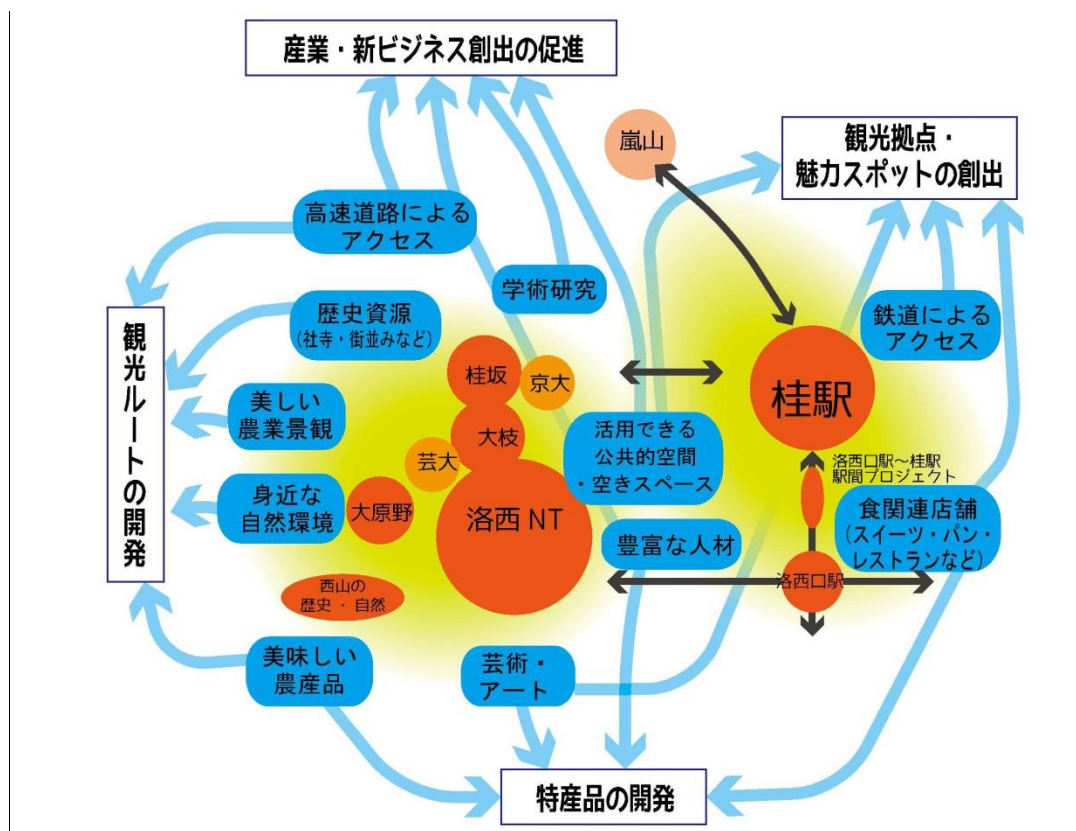
取組例：西京区のまちの資源や交通アクセスを活かした，観光プログラム等の開発・ビジネス振興

- ・西京区ならではのまちの資源を活かした観光プログラム（サイクリング，ピクニックなど）や特産品等を開発するための，事業者，住民，行政等のネットワークの形成。農業ビジネスや観光ビジネスの振興。
- ・高速道路のポテンシャルを見据えた産業の創出。例えば，車でのアクセスが向上したことと，元々持っている地域資源である農業地域の魅力を活かし，観光拠点として地域産品の直売施設の開設や「地産地消」の取組の推進など。
- ・西京区内の様々な人材や学術機関，企業，農業などがつながりコラボレーションすることで，新たなビジネスが創出されることを推進。
- ・元気な高齢者をはじめとするすべての人が地域のために活躍できるように，地域のきめ細やかなニーズや困りごとに対応するためのコミュニティビジネスを創出する。



観光プログラム事例例：らくさいマップ
(フリーペーパーらくさい)

○柱立て②に関する地域資源イメージ図



③「緑・人・住まいなど、様々な地域資源を活かし、西京区・洛西地域ならではのライフスタイルを実現するまち」

【現状・課題】

- ・自然が多く、住環境が良い。
- ・大原野や洛西ニュータウンなど一部の地域では生産年齢人口（15歳～64歳）の減少が著しい。
- ・特に洛西ニュータウンの住宅においては、若い人が入居しやすい間取りや価格設定になっていないのではないか。また、Uターンがし難い理由があるのではないか。
- ・核家族化が進み、子育てに関して母親の負担が増しており、安心して子育てができるには、子育て情報の見える化や身近なところで母親同士がつながれる場、機会などの環境を整える必要がある。
- ・子育てしながら働ける環境へのニーズ（保育サービスの充実）が高まってきており、夜間保育や病児保育などニーズに合った保育サービス、子育て支援サービスの充実が望まれている。
- ・子どもが安心して遊ぶ場所へのニーズが高まっている。
- ・高齢者が生活上の不便を家族やご近所で解決できなくなってきた。
- ・外に出られない高齢者も増えてきており、独居老人の孤独化が進んでいる。
- ・区内に立地する大学の学生が区内に居住しているが、地域活動への関わりは薄い。

【施策方向性】

- 西京区内には「良質な住宅地」「良好な教育環境」「通勤利便性」「豊かなみどり」「駅前のにぎわい」など、子どもからお年寄りまでが住みたくなるまちとしての多様な要素が揃っているため、これらの資源・機能をリニューアルしながら活用して、より魅力あるまちとしたいと思えます。
- 特に、西京区、洛西地域ならではの、豊かな自然や農業、まちの歴史などを生活に取り入れ、他のまちでは味わえない個性あるライフスタイルを送ることができるまちを目指します。

取組例：洛西NTにおいて人口増加に向けた住宅ストックの活用

- ・洛西NTには活用可能な住宅ストックが現存するがそれが十分に活かされていない。例えば洛西NTならではのテーマ（農業・食・子育て・ペットなど）を設定し、そのライフスタイルに応じた住宅（ハード）へのリノベーションや、サービス提供や支えあいの仕組み（ソフト）の導入を推進する。ただし、洛西ニュータウンの人口減少の原因（なぜ若い人が少なくなったのか）や若者の居住ニーズをしっかりと分析する必要がある。



テーマ型住宅事例
（菜園付の賃貸マンション（UR団地のリノベーション事例）
（東京都日野市多摩平の森 AURA243）

取組例：自然環境を活かした子育て環境と安心して子育てできる環境の充実・発信

- ・西京区の特長である自然環境を活かした子育て環境（ソフト、ハード両面）の充実や発信、地域における子どもの見守り活動をさらに充実させる。

- また、子どもからお年寄りまでが安心して暮らすことのできるまちとするために、地域内において支えあえる仕組みを備えたまちとしたいと思います。

取組例：西京区ならではのライフスタイルの一つとしてコミュニティビジネスを展開

- ・高齢者への買い物支援や子育て家庭への育児支援など暮らしの困りごとを解決するための住民活動を推進し継続可能なものとするため、コミュニティビジネスの手法を活用する。

取組例：子ども・若者と高齢者やママ同士が交流し支えあう仕組みと居場所づくり

- ・高齢者が外出したくなるような活動・イベントや若者と高齢者、ママ同士が交流できるような居場所づくりを既存の施設等を使ってできるのではないかな。

- 西京区・洛西地域のライフスタイルを支える交通環境の整ったまちとしたいと思います。

取組例：西京区に本当に必要な交通施策の再構築

- ・西京区に本当に必要な交通施策とは何か明確にするため、西京区で暮らす人・訪れる人、それぞれの視点に立ったうえで、区内も含めた交通問題を客観的に捉えなおす必要がある。

○柱立て③に関する地域資源イメージ図

